



馬頭星雲の彼方 版画会員 小林 大

## 2025道展U21講評 「共感と共有」

審査委員長 油彩部門会員 坂東 宏哉



2025第15回道展U21に受賞された皆さん、並びに入選された皆さん、おめでとうございます。展示されている作品は886点、うち平面821点、立体65点でした。どの作品も完成度が高く真剣に制作に取り組んでいるのが伝わってきます。20名の審査員によって二日間にわたって厳正に審査しました。1点1点挙手による審査が行われ、受賞作品

には審査員の共感がより多く寄せられたということです。優秀賞は例年の3倍、189点が選ばれ、密度と完成度の高い作品が多かった結果ではないかと思えます。目に留まった作品が数点ありますので講評したいと思います。

まず、大賞の長瀬朔弥さん(北海道札幌厚別高等学校)『守る者』は伸びやかな張りのある形態で、素材の色や質感をそのまま生かしています。存在感と作者の感情がストレートに伝わる作品となっています。次に、準大賞の俣野百香さん(市立札幌平岸高等学校)『winter gift shop』は統一された色彩の中に所狭しと配置された物たち。何があるのだろうと近づいて見たくなり、まるで地図をたどっていきような楽しさを感じます。ところどころにビビットな色彩

がちりばめられ作品に緊張感を与えています。受賞作品の中で目を引いた作品(中里賞)、上田音翔さん(札幌大谷高等学校)『永遠の直前』は水中の表現にシェーピングやドリッピングの技法を使い心地よいマチエールを作ってい



中里賞 上田 音翔『永遠の直前』

ます。背後にいる人物の存在がさらに空間の深さを演出しています。

人間はどうして絵画や彫刻、工芸など様々なものを作ってきたのか、そして作り

続けるのか。フランス南部地方にあるラスコーの洞窟壁画には写実的な動物が今にも動き出しそうに描かれています。よく見ると岩肌の凹凸を利用して存在感のある表現をしています。実際に見たままを誰かに伝えるためのものだったと想像できます。太古から延々と現在までおびただしい作品が作られてきました。残っている作品に共通しているのは、国を超えて人類共通の感性に共感を与えたことではなかったでしょうか。現存する過去の作品から学ぶものは多いと思います。その共鳴する部分を自分の中に吸収するというのが20歳くらいまでの間に最も必要なことです。美術館、博物館にある作品や図書館の画集から多くのことを吸収してほしいと思います。

戦争や紛争がいまだに世界のあちらこちらで続いています。他者に対して共感する力が薄れているのでしょうか。作品を作るということは自己のイメージを發し他者と共有することだと思います。今後も作品を作り鑑賞することを続けてください。共感する力があればきっと平和な世界が訪れるのではないかと思います。皆さんの今後の活躍を期待いたします。





第15回 道展 U21大賞  
北海道札幌厚別高等学校 長瀬 朔弥

私がこの作品を作ろうと思ったきっかけは、美術の授業でダンボール帽子を作ったことです。一生懸命つくっていたのですが、完成間近に体調を崩してしまい、披露することができませんでした。後悔の気持ちがあったので、その作品をベースに作り直したのが今回出品した「守る者」です。モチーフは、ガーゴイルゲッコウというミカドヤモリ属の一種です。特徴的な頭部の形やフォルムの美しさを表現するために、試行錯誤を繰り返しながら制作しました。この作品は、新聞紙を用いて大まかな形を作り、ポンド水に浸したダンボールを何重にも貼り合わせ、形作りしました。ダンボールをはり合わせる際には、その色合いや大きさなどにも気を配り、理想の形になるよう追求しました。完成した作品は、自分でも納得のいくものになりました。

受賞の知らせを聞いたときは、自分の積み上げてきたことが認められたように感じ、大きな自信となり美術がより一層好きになりました。今後も今まで以上に新しいことに挑戦し、自分の可能性を広げていきたいと思います。

このたびは、ありがとうございました。



第15回道展 U21 大賞

守る者

札幌厚別高等学校  
長瀬 朔弥



第15回道展 U21 準大賞

winter gift shop

市立札幌平岸高等学校  
俣野 百香

第98回道展  
会友賞・新会友  
受賞者の

ことば

●新会友 油彩 照井まゆみ

この上ない美しさに出会うと涙がでます。江戸川の花火…色と音の一瞬の芸術に涙。三春の滝桜…樹齢千年以上のしだれ桜で、偉大な生命力と存在感に涙。鳴門の渦潮…自然が織り成す大迫力の造形美に涙。美しさ、儂さ、命をテーマとし頑張りたいと思っています。

●新会友 油彩 加藤 隆

いまだ種々の生命の発生や人類が築き遺してきたものに素朴な驚異や不思議さを感じ、興味が尽きません。古代から生き残る放散虫という美しい単細胞を鍵に、過去から現在そして未来への繋がりを自分な

りに表現していきたいと思っています。

●新会友 油彩 中村 紀子

私のモチーフは身近にある野菜などを描いております。ここ、2～3年はカラスが農作物を狙う姿を描いていますが近年はカラスばかりでは無くアライグマやキツネ等が丹精込めて育てた野菜を荒らしていますので、それらもリアルに描ければと思います。試行錯誤をしております。

●新会友 油彩 松木 敦子

1月、真っ白なキャンバスを前にして「さあ、やるぞ」と思う一方、これから始まる長い道のりを思い挫けそうになる気持ちに苛まれました。それでも、何かと中途半端で終わることの多い私ですが、これだけは妥協せずにやり遂げようと心に誓いました。

●新会友 水彩 久野 省司

私が湿原を描くようになってから、10年少々になります。天候そして時間帯に左右されるこの空間は、私の宝物です。これからも湿原を

テーマに製作していきたいと思っております。

●新会友 水彩 村本 洋

今、「私…」を描く（今年旭川第80回記念新ロマン派企画展）をテーマに描いています。「自分の内側にある想いを形にして見えるようにする」とアートをする人に聞いたことがあります……。

●新会友 工芸 兼好 陽子

元会員生駒道子さんの訃報を知り、深い喪失感に見舞われています。華やかさを身にまとった誰かが目をみはる、その一方で力強い凛とした作品に多くを魅了。道展に導いて下さった事に感謝し、先生の志しを汲んで精進していきます。時にポーンとはじけて着地したい。

●会友賞 日本画 牧野 香里

制作してみたいと思うモチーフはその都度変わるが、最近は人物を主たるモチーフとしている。人物は特定の誰かを描くことを目的としているわけではないが、人物の魅力を引



新会友 照井まゆみ  
瞬間



新会友 加藤 隆  
グリーンゲイト



新会友 中村 紀子  
晩秋



新会友 久野 省司  
湿原の早春



新会友 松木 敦子  
kuma



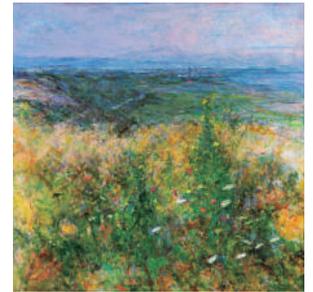
新会友 村本 洋  
農道風景Ⅱ



新会友 兼好 陽子  
しゅういん  
秋韻



会友賞 牧野 香里  
音を曳く蝶



会友賞 小川 亨子  
晩夏 想う

き出すことに苦心している。今後も詩的な思考実験として絵画を制作していきたい。

●会友賞 油彩 小川 亨子  
ふと見上げた空に、不思議な世界を見る時が有る。又見慣れた風景、時には涙があふれて来る様な懐かしさも運んで来る。そんな日々・大地の広がり・空気・光・自分の想いを含めて表現できればと思っています。

●会友賞 油彩 河口真由美  
こども時代を過ごした蘭越町のお祭りをモチーフにしています。当時は駅のホームに入り、線路の上を歩きながら見上げる花火が綺麗でした。好きだった飴細工と型抜きを散りばめ、北海こども盆踊りをしているピクトグラムを手前に描いています。

●会友賞 油彩 安田 祐子  
この度は会友賞をいただいたこと、誠に光栄に思います。仕事と制作の両立は難しく思うような作品を作れずにいた期間が長くありまし

た。日々些細なできごとに揺れる気持ちと、周囲の方々の協力が函館での制作を支えてくれました。今後も一層精進して参ります。

●会友賞 油彩 福司 康二  
今地元で若い人に交じって雪中キャンプの手伝いをしている。みんな平気でテントで夜を明かす、とても真似はできない。毎回張り切って出品するけど、展示されると恥ずかしくなる。今年こそはとまた挑戦する、空にむかって背筋をのぼしてみる。

●会友賞 油彩 西村 司  
その昔、支笏火山の堆積物により進路変更を余儀なくされた千歳川は、低地に広大な湿地帯を作り、長都沼や馬追沼を出現させました。古い地図でその奇怪な形を見て以来心から離れなくなり、アイヌ民話「カニの神さまたち」と絡めて描いたのがこの作品です。

●会友賞 油彩 田之鳥篤子  
廃車をテーマに取り組んでいま

す。スクラップ置場の偶然に積み重ねた形が、リズムカルだ。朽ちた錆色が美しい。お気に入りを見つけて、描いています。長年続けて来たことが、今に繋がっていると思います。健康で絵が、永く続けられますよう願っています。

●会友賞 水彩 斎藤 誠  
私の絵は、身近な自然がテーマです。近郊には四季折々の美しい自然がありますが、今回は色彩に乏しい冬景色に挑戦の作品でした。今後も、歳を重ねても描ける幸せに感謝しつつ、輝く自然と感動の一瞬をキャンバスに表現できたらと思います。

●会友賞 版画 福地 秀樹  
生命力にある絵を描きたい願いから食生活に気をつけ、精神力もつけることも大切だと本を読むようになった。力はしなやかさの中にあると思うのだが、猪突猛進な自分にはそれが上手くない。制作を重ね変容する精神と肉体を確認しつつ気持ちを維持していきたい。



会友賞 河口真由美  
懐かしむことはできる



会友賞 安田 祐子  
白雨のそらみみ



会友賞 福司 康二  
駆ける



会友賞 西村 司  
オサットーの妖怪



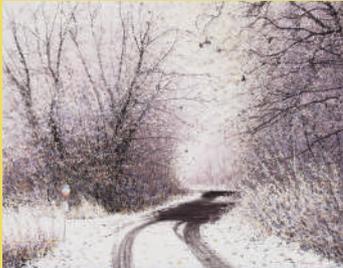
会友賞 田之島篤子  
明日の行方



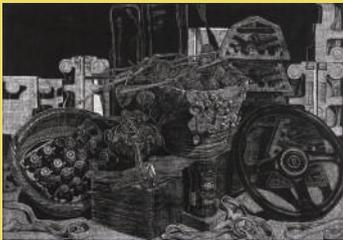
会友賞 花輪 大輔  
重力と呼吸



会友賞 佐々木仁美  
冬支度



会友賞 斎藤 誠  
セピアの風景



会友賞 福地 秀樹  
生成4

●会友賞 彫刻 花輪 大輔

近年は幾何形体をモチーフとして、質量と堅さを伴った精神の在り方を研究テーマとしています。精神と呼吸・鼓動のような生命的・身体的リズムは不可分であり、両者のリズムの往還が二元論を乗り越える地平をもたらし、形を再構成する契機となり得ると考えています。

●会友賞 彫刻 佐々木仁美

幌加内町に移住して丸3年、山に囲まれたそば畑の広がる自然豊かな景色は何よりも美しく、この空気感を取り込んだ作品を作りたいと思い、今まで取り組んできた鑄金技術に加え、新たな表現方法や素材を模索しています。

絵好きの集う店  
カフェ北都館 ギャラリー

札幌市西区琴似1条3丁目1-14 第一病院向い  
TEL 011-643-5051

営業時間 水～日 AM 10:00～PM 7:00  
火曜定休日 月 AM 10:00～PM 5:00

メールアドレス hokutokan@sa3.gyao.ne.jp  
http://hokutokan.jimdo.com



ウグイス色は実際のウグイスの羽のような暗い緑褐色を指すが、鮮やかな黄緑色を連想する人が多い。これは、警戒心の強いウグイスは鳴き声ばかりで人前に現れず、同時期・同場所に姿を見せる、同じ春告鳥のメジロが、その美声の持ち主と混同されがちなためという説がある。花札に描かれる「梅にウグイス」もメジロ風の緑に彩色されている。

C39% M29% Y83% K4%

梅に鶯、紅葉に鹿

https://nakanishi-shuppan.co.jp



NAKANISHI PUBLISHING CO.,LTD.

since 1988

道展ニュース

No. 155 [2025年5月10日発行]

発行 ■ 北海道美術協会  
編集 ■ 道展広報部  
URL ■ https://doten.jp  
デザイン ■ 笠井真紀子 (中西印刷株式会社)  
印刷 ■ 中西印刷株式会社

編集  
後記

2024年度から広報部に配属され、今回から道展ニュースの編集担当を務めさせていただいております。前任者から引き継いだ過去の道展ニュースに目を通しながら、道展に関わる皆さんが積み重ねてきた歴史の重みを感じています。本号の編集にあたり、受賞者の皆様とメール等でやり取りさせていただきました。

お送りいただいたコメントを拝読しながら、北海道各地で黙々と作品制作に励んでおられる皆様の姿を想像しました。美術が好きな人たちが集まり切磋琢磨する道展のメンバーの一員として、これからもこの地でじっくりと絵画制作を行って参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。(H. F.)